

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2015.2 vol. 106

第1回 がん市民公開講座



去る平成26年11月29日（土）、南日本新聞社 みなみホールにて、「あなたがもし“がん”になったら～知っておきたい消化器がんと緩和ケア～」のタイトルで、第1回がん市民公開講座を開催いたしました。2人に1人ががんに罹患する現代社会にあつて、一般市民の方々にがんの予防・診断・治療・緩和ケアの知識を広め、がんに対する相互理解を医療者とともに深めることを目的といたしました。

開演に先立ち、当院のがん診療部門の紹介DVDを放映し、花田修一院長の開会挨拶とがんの包括的な講演に続いて、第1部では、藤田浩（消化器内科医長）の「ここまで進んだ消化器がんの診断と内視鏡的治療」（40分）、菰方輝夫（外科・消化器外科医長）の「ここまで進んだ消化器がんの外科治療」（40分）、諸留えりか（がん化学療法看護認定看護師）の「抗がん剤治療を受ける時の心構え」（15分）、馬籠さつき（緩和ケア認定看護師）の「緩和ケアってなあに？」（15分）の順に講演を行いました。第2部のパネルディスカッション（60分）では、コーディネーター、魚住公治（腫瘍内科部長）、米倉隆治（放射線科部長）のもと、4名の講演者と水元玲子（がん相談支援センターソーシャルワーカー）が、会場からのがんに関する質疑に回答いたしました。最後は、松崎勉（がん相談支援センター室長）の開会挨拶で締めくくりました。

今回の第1回がん市民公開講座は、5大がんのうち胃・大腸・肝臓がんの3つを含む消化器がん、がんと診断された時点から不可欠の緩和ケアをテーマとし、ゲストスピーカーは招聘せず、手作りでも如何にall KMC（Kagoshima Medical Center）を打ち出し、参加された方々と双方向性のコミュニケーションが得られるかということをも命題といたしました。お陰様で、会場定員300席中、259名の方にご参加いただき、事前に募りました消化器がんと緩和ケアに関する質問に対する討論が出来ない程、会場から質問が殺到いたしました。事後のアンケートでは、「この企画は誰が考えたのですか？いつもと違いとても良かった」「いつもの講演はお偉い先生が来られ、話されるが今回は鹿児島医療センターの先生方のお話が聞けてとても良かった。来年は何時予定していますか？」「先生方の話は最初の先生がとても分かりやすかった。でも次の先生の話は少し難しかったがでも良かった。めったに聞ける話でないのもとても良かった」「相談したいことがあるので後日メディカルセンターに行きます」「司会をされた先生も質問に答えてくださりとても良かった。すばらしい先生方が鹿児島医療センターにはいらっしゃるのですね」などお答え頂き、南日本新聞にも12月8日に記事を掲載して頂きました。

本会を通じて、一般市民の方々のがんに対する様々な想いや考え、KMCがん診療への期待の大きさを実感いたしました。当院診療の3本柱、心臓、脳血管疾患と同様に、今後も市民の皆様のお役に立てるよう定例開催していく予定でありますので、皆様からがん市民公開講座へのご要望、ご助言などご意見を頂ければ幸いです。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、第1回がん市民公開講座を無事に開催することが出来たのは、院内各部署および後援各所（鹿児島県、鹿児島市、鹿児島市医師会、鹿児島県歯科医師会、南日本新聞社）や開催にご理解頂きました連携先ご施設のご協力の賜とっております。末筆ながらこの場をお借りしてご協力、ご後援ならびにご支援頂きました方々、各施設、団体に厚く御礼申し上げます。

（文責：外科・消化器外科医長 菰方 輝夫）



平成26年度 脳卒中看護エキスパートナース研修を開催して

鹿児島医療センターでは、脳卒中の専門施設として脳卒中エキスパートナース研修を毎年開催しております。今年度も平成26年12月1日から平成26年12月9日までの7日間、院外8施設8名、院内3名の参加で脳卒中看護エキスパートナース研修を開催いたしました。

この研修は、脳卒中看護の質の向上を図るための知識・技術・態度を習得し、より専門性の高い看護実践ができる能力を育成することを目的に、脳卒中の病態生理、診断および治療、運動・認知機能障害とリハビリテーション、脳卒中患者のフィジカルアセスメント、重篤化回避・合併症予防の技術、脳卒中患者・家族の理解と支援などの講義や演習を通して、脳卒中看護について系統的に学ぶような内容としました。また脳卒中病棟、SCU、ICU、手術室の実習では、脳卒中の病態に沿った治療、急性期にある患者のモニタリングと看護ケア、障害に応じたリハビリテーション、患者家族を取り巻くチーム医療や心理的社会的問題について理解を深められたと思います。事例検討では、急性期、回復期の事例を通して脳卒中患者・家族を身体的、心理的、社会的側面からアセスメントし、適切な看護介入について検討するとともに、生活再構築のための支援やセルフケア能力を高めるための援助について考えることができました。今回の研修で、脳卒中患者の看護上のアセスメントを行う上でのより専門性の高い知識を得られたのではないかと感じています。

今年度も各施設の脳卒中看護実践の役割モデルとして将来期待できる方々に参加して頂き、有意義な研修をとり行うことができました。また公開講座にも院外の施設より延べ148名の方々の参加があり、脳卒中看護に対する関心の高さを実感いたしました。今後、脳卒中看護エキスパートナース研修生には、脳卒中患者の看護実践を通して役割モデルを示し、チーム医療においてリーダーシップを発揮されること、またこの研修を通しての施設間の交流が脳卒中地域連携における看護師間のネットワークの強化につながることを期待します。

(文責：東5階病棟師長 養田 尚美)



看護研究発表会を終えて



平成26年12月17日（水）「看護への探究心を持ち、自らの看護実践の熟達へ向けて学び続ける基礎的能力を身につけることができる。」を目的に看護研究発表会を開催しました。当日は北風の寒い1日でしたが、天候に恵まれ、3年生全員による看護研究発表、2年生代表4名による基礎看護実習Ⅱを終えての看護観発表を行いました。3年生の演題数は、99題（口演8題、示説91題）で、6会場に分かれて発表が行われました。

看護研究発表にはもう一つの目的がありました。学生が看護研究発表会の企画運営を主体的に行うということでした。看護研究委員を中心に看護研究発表のテーマの設定や看護研究発表会の進行と運営を学年間で連携し実践するようにしました。3年生が主体的に企画運営リーダーシップを発揮することによって、1、2年生は目標に向けて考え抜く力や協力する力を学んでいました。今回の看護研究をまとめるにあたって、3年生は看護実践者として看護の奥深さを感じており、更なる学習意欲へと結びつけていたようでした。2年生は、患者の立場に立って考え、ヒューマンケアを実践することの大切さを学んでいました。アンケートの結果からも、2年生は1月からの臨地実習に思いを馳せ、1年生は講義での学びを実践に活かしていく意味をつかんでいました。午後からの口述発表では臨地指導者にも講評を頂きました。指導者の方々の自己の看護観を交えた講評によって、学生の臨地実習の体験の意味づけをさらに深めることができました。

学生は看護研究発表という機会から、今回のテーマである「患者の思いに寄り添いながら生活を支える看護」の意味を考え深めていました。これからも相手の立場になって考えることのできる学生の育成に向けて努力していきたいと、決意を新たにしたい看護研究発表会でした。

（文責：鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校 教員 西元 智子）



放射線治療の副作用対策に関する研修会のご案内

■ 日 時：平成27年3月20日（金）18：00～19：00

■ 場 所：国立病院機構 鹿児島医療センター大会議室

■ 研修会名：平成26年度 がん診療連携拠点病院研修

「放射線治療について—他診療科の方々に知っていただきたいこと」

講師：放射線科部長 米倉 隆治（鹿児島医療センター）

■ 対象者：医師・看護師・コメディカル等

※参加ご希望の方は3月17日（火）までに企画課竹田津までご連絡下さい。院外の方のご参加をお待ちしています。

【電話】099-223-1151 【FAX】0120-226-9246

クリスマスコンサート

12/6(土) 11回目のクリスマスコンサートが開催されました。今回も中庭のイルミネーションやコンサート会場の飾りつけを行い、コンサートを行うのにふさわしいステージを設営することができました。

開会式では、花田院長より患者様へ癒しの気持ちを込めた挨拶を頂きました。

1番目はつくし保育園児達による元気いっぱいの歌と楽器遊びを披露して頂きました。演奏後にサンタさん(太田事務部長?上別府看護部長?)からプレゼントをもらい、大盛り上がりでした。

2番目は看護学生によるコーラスで、曲は「シングルベル」「あわてんぼうのサンタクロース」など3曲を歌って頂きました。息の合ったコーラスで、患者様も一緒に口ずさんでられるなど、会場一体となって楽しんで頂きました。

3番目は看護師長会によるハンドベルで、曲は「きよしこの夜」「あわてんぼうのサンタクロース」の2曲でした。ハンドベルの優しい音色に包まれ、とても心地よい気持ちになりました。

4番目に当院の第1循環器内科毛利先生によるピアノ演奏でした。曲は、アナと雪の女王の「Let it go」と「星に願いを」の2曲で、優しく流れていくメロディに心癒され、会場の患者様からはたくさん拍手が沸き起こりました。

ラストを飾るのは、毎年ご出演して頂いているサザンウィンド吹奏楽団です。曲は「演歌メドレー」「アナと雪の女王」など含む4曲でバラエティにとんだ心温まる演奏を披露して頂きました。

閉会の挨拶として、村田副看護部長より無事にコンサートを終えることができた感謝の気持ちを込めての挨拶を頂きました。

コンサートの余韻が冷めやまない中、患者様・ご家族にディナーパーティの会場に移って頂き、調理師さんによるデコレーションスイーツや盛り付けられた果物、温かいコーヒー・紅茶などをゆっくり堪能して頂きました。

全体を通して、患者様へのおもてなし・ご配慮が行き届かぬ点もあったかと思いますが、少しでも療養の糧になって頂ければとの思いで取り組みました。今後も微力ながら職員一同で努めて参りたいと思います。

(文責:医療サービス向上委員会イベントチーム 大迫 朋子)



第5回 心臓・血管病市民公開講座 ～ますます増えてくる心不全を知ろう～のご案内

開催日:平成27年4月5日(日)

午前の部(午前10時~12時):健康フェスタ(鹿児島医療センター外来)
午後の部(午後1時~3時40分):講演会(かごしま県民交流センター)

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】蘭田・四丸・井手・濱口・鷺頭・吉留・山口・櫻木・竹田津

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

